雪舟の国宝6件すべて公開

大好き！雪舟先生！

特別展

雪舟伝説

みんなの憧れ、みんなのお手本。

等伯・探幽・光琳・若冲・蕭白・応挙…

―「画聖」の誕生―カリスマ

若冲筆

竹梅双鶴図（部分）
東京・出光美術館蔵
【4月30日～5月26日展示】

雪舟筆

重要文化財
四季花鳥図屏風（部分）
京都国立博物館蔵
【通期展示】

Special Exhibition
THE LEGEND OF
SESSHŪ
Birth of a Master Painter
April 13–May 26, 2024

2024年
4月13日(土)―5月26日(日)
京都国立博物館
平成知新館 KYOTO NATIONAL MUSEUM【東山七条】

プレスリリース

※「雪舟展」では　ありません!!!

日本美術史上もっとも重要な画家の一人とされる雪舟。六件もの作品が国宝に指定されていることが象徴的に示しているように、雪舟に対する現在の評価は突出したものがあります。しかし、それは単純に作品が優れているという理由だけによるのではありません。雪舟とその作品に対し、歴史的に積み重ねられてきた評価の上に、今日の高い評価があるのです。

本展では、主に近世における雪舟受容を辿ることで、「画聖」と仰がれる雪舟への評価がいかにして形成されてきたのかを検証します。桃山時代に雪舟の後継者を自称した雲谷派と長谷川派、雪舟画風を流派様式の礎とした江戸時代の狩野派はもとより、これら漢画系の画家とは異なる実にさまざまな画家たちが雪舟を慕い、その作品に学びながら、新しい絵画世界を切り開いていきました。

一口に雪舟受容といってもそれ自体複雑な性質を孕み、多角的に把握すべきものです。その多様な雪舟受容を通して、「画聖」雪舟誕生の過程を明らかにすることを目指します。

本展の特色

1 **雪舟の国宝六件が勢揃い！**

2 **比べてわかる、雪舟の影響力！**

3 **こんな画家も!?幅広いフォロワーたち**

4 **京博だけ！巡回なしの京都限定開催**

雪舟ってどんな人？

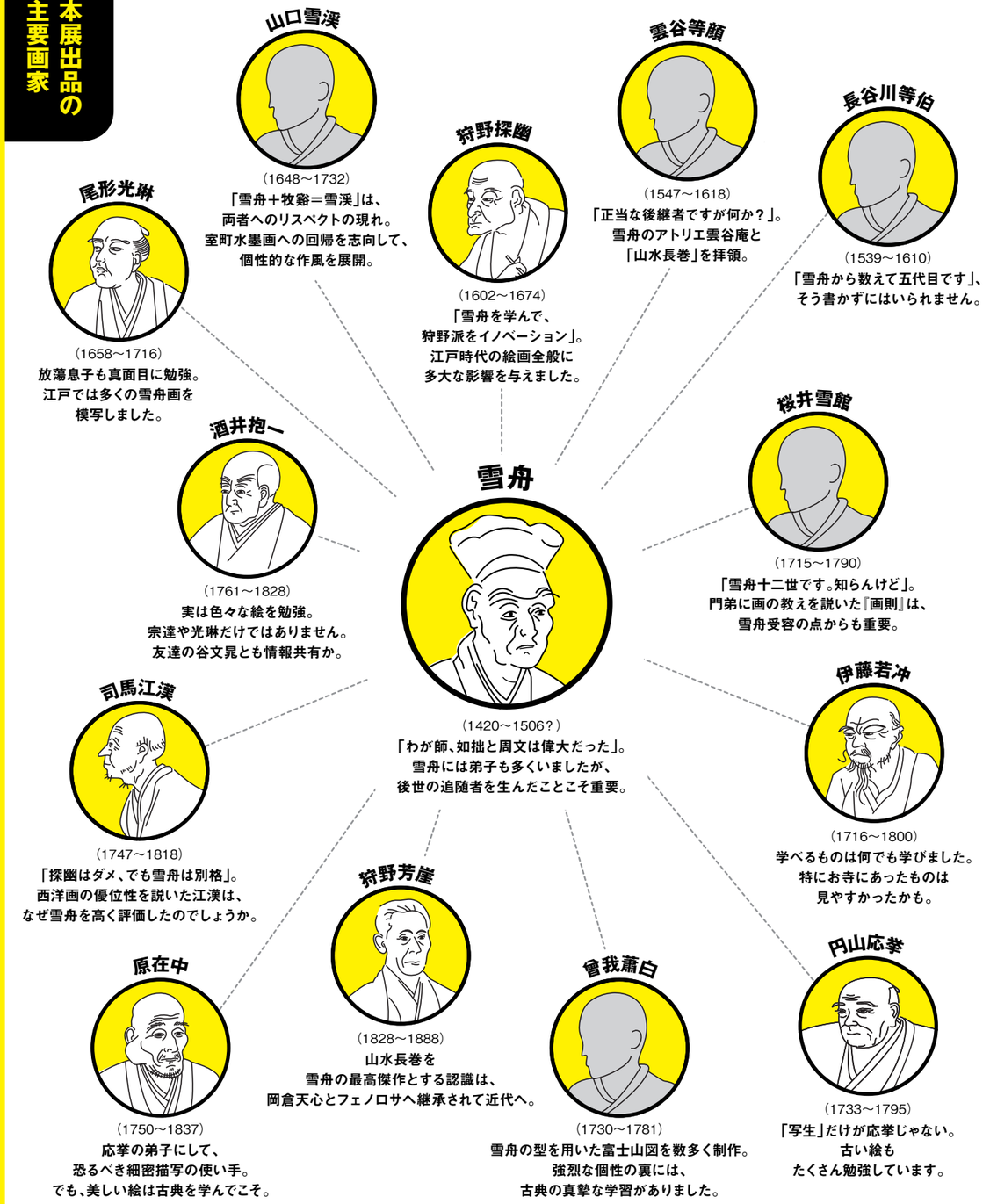
雪舟（一四二〇～一五〇六？）は、備中国赤浜（現在の岡山県総社市）に生まれた人です。幼い頃に上洛して相国寺に入り、禅僧としての修行を積むかたわら、室町幕府御用絵師であった周文に画を学びました。

やがて周防（現在の山口県）に下り大内氏の庇護を得ると、応仁元年（一四六七）には遣明使節の一行に加わり入明を果たしています。足掛け三年に及ぶ在明ののち帰国したあとは、はじめ豊後（現在の大分県）、のち再び周防を主な拠点としながら旅を重ね、宋元画を学んだ幅広い画風と骨太で力強い筆墨に特色ある作品を残しました。

「画聖」としての雪舟

- 雪舟は、六件もの作品が国宝に指定されています。これは、狩野永徳の四件を凌ぎ、一人の画家としては最も多い指定件数です。雪舟に対する評価が、いかに突出したものであるかがわかります。
- 少年時代に寺で叱られた雪舟が、「涙でネズミの絵を描いた」という有名なエピソードは、江戸時代に語られるようになりました。巨匠につきものの天才伝説の類と思われますが、それだけ偉大な存在と認識されていたことの証と言えます。
- 一九五五年にウィーンで開催された世界平和評議大会において、雪舟が世界十大文化人の一人に選ばれました（他はレンブラント、モーツァルト、ドストエフスキーなど）。没後四五〇年を経て、雪舟はついに「世界の雪舟」となったのです。

本展出品の主要画家



これが雪舟だ！

雪舟筆と伝わる作品は数多く残っていますが、誰もが間違いないと認める作品は決して多くはありません。まずは、数ある雪舟画のうち代表作と呼び得る作品を通して、「画聖」の原点を確認します。それぞれの作品がもつ力を感じていただくと同時に、雪舟が現在いかに高く評価されているのかをご覧いただきます。

ザ・雪舟

国宝　秋冬山水図
雪舟筆　室町時代（十五世紀）
東京国立博物館蔵　【通期展示】

教科書にも頻繁に掲載されるなど、雪舟の最もよく知られた作品と言ってよいでしょう。荒々しく強い筆致、独特の画面構成など、小画面に雪舟らしさが凝縮されています。昭和十一年までは京都の曼殊院に所蔵されていました。

リアリティに満ちた異色の実景図

国宝　天橋立図
雪舟筆
室町時代（十六世紀）
京都国立博物館蔵
【通期展示】

雪舟が天橋立を克明に描いた大作。**現地での写生をもとに晩年に描いたもの**と見られますが、下絵であり本画は現存しません。複数の地点から眺めた広範な景観を美しくまとめ上げる構成力に、雪舟の非凡な力量が見て取れます。

雪舟自筆の序文をともなう

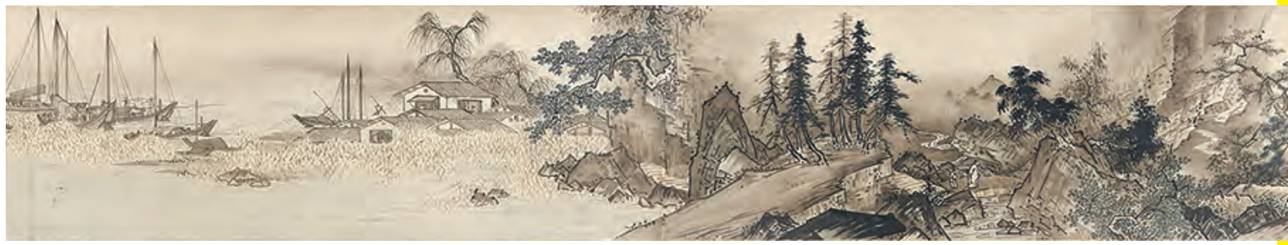
国宝　破墨山水図
雪舟筆　室町時代　明応四年（一四九五）
東京国立博物館蔵　【通期展示】

雪舟が弟子の求めに応じて描いた作品。中国の画僧玉澗にならい、濃淡の墨面を広げるようにして山水が描かれています。**この絵の制作経緯や、入明経験を経て理解した師の尊さなどが、雪舟自身の手で記されている点でも重要です。**

国宝　四季山水図巻（山水長巻）（部分）
雪舟筆　室町時代　文明十八年（一四八六）
山口・毛利博物館蔵　【会期中巻替えあり】

長さ十六メートルにおよぶ大作。様々な山水表現をまとめた絵手本のような作で、室町将軍家秘蔵の中国の山水画巻をモデルにしたともいわれています。のちに毛利家から雲谷等顔に付与されました。

「天下無双」と称された大作



雪舟を継ぐのは俺だ！
―雲谷派と長谷川派―

雪舟唯一の花鳥画か

重要文化財　四季花鳥図屏風
雪舟筆
室町時代（十五世紀）
京都国立博物館蔵
【通期展示】

無款ながら雪舟筆と考えられている作品。**山水画の印象が強い雪舟ですが、それればかりでなく、仏画や花鳥画も多く手掛けていました。**原本に加え、雲谷等益による模本（東福寺蔵）を通じて、多くの画家にインスピレーションを与えてきました。

雪舟は、秋月や宗淵、等春など多くの弟子を育てましたが、その画系は必ずしも長くは続かなかったようです。そんな雪舟の画風を継承、再生させたのは、桃山時代の雲谷等顔や長谷川等伯でした。彼らは雪舟に師事したわけではありませんが、その後継者を名乗り、雪舟画風を規範とする作品を数多く制作しました。

「山水長巻」から襖へ

重要文化財　山水図襖
雲谷等顔筆
桃山時代（十六～十七世紀）
京都・黄梅院蔵
【通期展示】

モチーフ、描法ともに雪舟筆「四季山水図巻（山水長巻）」を参照して描いたことが明らかな作品です。等顔は、毛利家から雲谷庵（雪舟のアトリエ）と山水長巻を拝領し、名実ともに雪舟流の後継者として活躍しました。

雪舟の後継者を名乗る

竹林七賢図屏風
長谷川等伯筆
桃山時代　慶長十二年（一六〇七）
京都・両足院蔵　【通期展示】

雲谷等顔と同時代に活躍した等伯も、雪舟流の後継者を自称しました。この作品には**「自雪舟五代」「雪舟より五代」と記されており、後継者としての自負が明瞭です。**さらに言えば、こうした名乗りが一種の権威として機能したと考えられる点は重要です。

みんな雪舟が好きだった

―雪舟受容の広がりとその多様性―

雪舟の伝説化に寄与したのは狩野派ばかりではありません。
狩野派のように、
漢画（主に宋・元の中国絵画に学んだ絵画）を
もっぱらとした画家だけでなく、
江戸時代の多くの画家がさまざまな
観点から雪舟を規範として仰ぎ、
それが「画聖」雪舟という
現在の評価へと確かに繋がっているのです。

富士三保清見寺図

伝雪舟筆
室町時代（十六世紀）
東京・永青文庫蔵
【通期展示】

富士山と三保松原、清見寺を安定した構図のうちにまとめ上げた作品で、熊本藩主細川家に伝来しました。**江戸時代には雪舟が明で描いた作品と信じられ、数多くの後継作品を生み出しました。**

江戸時代の雪舟イメージ

富士三保清見寺図屏風

狩野山雪筆　江戸時代（十七世紀）
【通期展示】

同じ狩野派画家でも、京都で活躍した山雪は、その立場も画風も探幽とは大きく異なっていました。この作品も、**悠々と裾野を広げるシンメトリーな富士山の形や、モチーフをくっきりと輪郭する描法など、探幽の富士山図とは全く違う、山雪らしさに満ちています。**にもかかわらず、**その根底にあるのは伝雪舟筆「富士三保清見寺図」なのです。**

山雪らしい、でも雪舟風

富士三保図屏風

曾我蕭白筆
江戸時代（十八世紀）
滋賀・MIHO MUSEUM蔵
【通期展示】

三保松原に虹が架かるという表現が、非常にユニークです。**荒々しい筆墨や奇妙な形の富士山などに蕭白らしさが顕著ですが、構図は明らかに伝雪舟筆「富士三保清見寺図」を踏襲しています。**

いかにも蕭白、でも雪舟風

西洋かぶれにとっても別格

駿州八部富士図

司馬江漢筆
江戸時代
寛政元年（一七八九）
【通期展示】

江漢は、江戸から長崎へ向かう旅の途次、久能寺（現在の鉄舟寺）から富士山を望み、「これこそ、かつて雪舟が見た景色だと確信しました。本作には、**雪舟と同じ富士山ビューポイントに立ったという感動と、その発見者としての自負が綴られています。**

江戸時代の雪舟評価を確立

―狩野派の仕事―

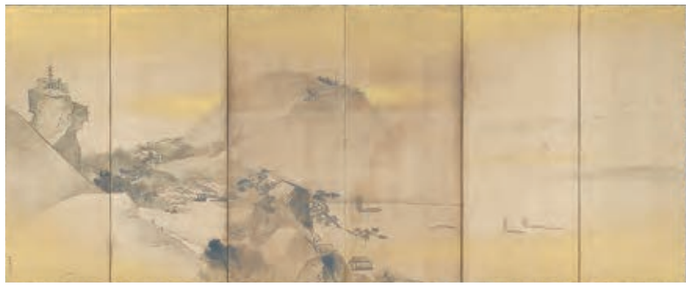
近世における雪舟神格化の動きに最も大きな役割を果たしたのは、狩野探幽です。
探幽の画風は、狩野派のみならず江戸時代絵画全般の一つの共通基盤となりましたが、その探幽が自らの画風を形成するにあたり拠り所としたのが雪舟だったのです。
江戸時代の狩野派作品を通して、雪舟画風の継承を確認します。

どう見ても雪舟風

山水図屏風

狩野探幽筆
江戸時代（十七世紀）
京都・長福寺蔵　【通期展示】

探幽の若い時期、まだ「采女」と称していた頃の作品です。**その描法は明らかに雪舟に学んだもの。**探幽が自己の様式を確立するうえで、雪舟画の学習がいかに重要な役割を果たしたかがわかります。



雪舟の「型」を継承

富士山図

狩野探幽筆
江戸時代（十七世紀）
【通期展示】

探幽が数多く描いた富士山図のなかでも、破格のサイズを誇る大幅です。**余白を広く取り、淡墨を主体とする表現は探幽ならではですが、その構図は明らかに伝雪舟筆「富士三保清見寺図」を踏襲したものです。**しかるべき大名の求めに応じて制作されたと考えられます。

探幽が見た「雪舟」

探幽縮図
雪舟筆自画像模本

狩野探幽筆
江戸時代（十七世紀）
京都国立博物館蔵　【通期展示】

江戸時代には、現在知られているよりもずっと多くの「雪舟画」が流通していました。もちろん、それらのすべてが雪舟の真筆であったわけではないでしょう。しかし、**現在では雪舟筆と認められていない作品や、所在が知られていない作品も、当時は雪舟画として受容され、画家像の形成に一役買っていたのです。**

リアルを支える古典

富士三保松原図

原在中筆
江戸時代　文政五年（一八二二）
静岡県立美術館蔵
【通期展示】

超絶的な細部描写に圧倒される作品です。落款に「久能山」（久能寺を指すか）からの眺望であることが記されており、**自らの視覚体験に基づく絵であることが示されています。**にもかかわらず、**その構図には伝雪舟画の影響が明らか**です。

雪舟＋牧谿＝雪渓

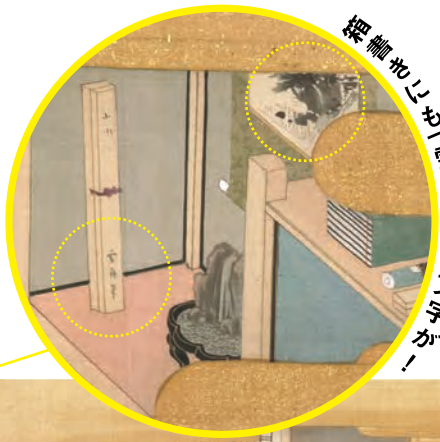
十六羅漢図（十六幅のうち）
山口雪渓筆
江戸時代（十七～十八世紀）
京都・善導寺蔵
【通期展示】

雪渓という号は、雪舟と牧谿（宋末元初の画僧）から一字ずつ取ったものと伝えられています。画風は必ずしも雪舟風とは言えませんが、**その名乗りには、雪舟に対する強いリスペクトが表れています。**

学んだのは中国絵画だけじゃない

竹梅双鶴図
伊藤若冲筆　江戸時代（十八世紀）
東京・出光美術館蔵
【4月30日～5月26日展示】

若冲や同時代の画家たちは、中国の比較的新しい時代の絵画に強く関心を寄せていました。**しかし、一方で古い日本の絵画も学んでいたことは間違いなく、この作品にも雪舟筆「四季花鳥図屏風」との類似点が見られます。**



課税にも「雪舟筆」の文字が！

初宮参図巻（部分）
勝川春章筆　江戸時代（十八世紀）
北海道・似鳥美術館蔵
【通期展示】

若い娘の見合いに始まり、婚礼、夫婦の営みと出産、そして初宮参りまでを描く春画巻。**高位の武家と思しい屋敷の寝室には、雪舟の山水図が掛けられています。**雪舟の画が、一種のステータスシンボルとなっていた様子がうかがえる興味深い作品です。

春画の中の雪舟

特別展

雪舟伝説

―「画聖（カリスマ）」の誕生―

2024年
4月13日（土）―5月26日（日）

［主な展示替］
前期：4月13日（土）～5月6日（月・休）
後期：5月8日（水）～5月26日（日）
※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替を行います。

開館時間＝午前9時―午後5時30分　＊入館は閉館30分前まで
休 館 日＝月曜日
　＊ただし、4月29日（月・祝）、5月6日（月・休）は開館、5月7日（火）休館

主　　催＝京都国立博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞

展覧会公式サイト｜https://sesshu2024.exhn.jp

会　場
京都国立博物館
平成知新館 KYOTO NATIONAL MUSEUM【東山七条】
京都市東山区茶屋町527
お問合せ＝075-525-2473（テレホンサービス）
https://www.kyohaku.go.jp/

本展に関するプレスお問い合わせ
特別展「雪舟伝説―「画聖（カリスマ）」の誕生―」
広報事務局（共同PR内）担当：三井
TEL＝03-6264-2382
E-Mail＝sesshu2024-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-0045
東京都中央区築地1-13-1　銀座松竹スクエア10階

表面作品：竹梅双鶴図（部分）　伊藤若冲筆　江戸時代（十八世紀）　東京・出光美術館蔵（後期展示）／重要文化財　四季花鳥図屏風（部分）　雪舟筆　室町時代（十五世紀）　京都国立博物館蔵（通期展示）／国宝　秋冬山水図（部分）　雪舟筆　室町時代（十五世紀）　東京国立博物館蔵（通期展示）